

学校図書館の活性化に向けた学校図書館と ICT 活用の在り方

千葉県市川市立曾谷小学校 富永 香羊子

〈要約〉

A 小学校では、G I G A スクール構想を踏まえて、学校図書館と ICT 機器をどのような場面でどのように活用すべきかについて検討を行った。その中で授業は、授業者である教諭（司書教諭を含む）と学校司書だけでなく、市が独自に配置している ICT 支援員とが協働して行うことが重要であることが分かった。また、児童の話し合い活動においては、教職員の「ファシリテーションスキル」が重要であることが示唆された。さらに、A 小学校は、2021 年度より、文部科学省委託事業「学校図書館の活性化に向けた調査研究」における協力校の委嘱を受けると共に、隣接学区の B 小学校・C 中学校との 3 校で、小中一貫型小学校・中学校（併設型：義務教育学校モデル）としてもスタートした。A 小学校での実践を B 小学校、C 中学校へ広げるための方策についても検討を行った。

〈キーワード〉

学校図書館 ICT G I G A スクール ICT 支援員 ファシリテーションスキル

はじめに

文部科学省は、『「G I G A スクール構想の実現」とは ～学校情報化の目的と概略～』（2020.5）と題して、なぜ学校情報化が必要

であるのかについて、全国に向けて動画配信による説明を行った。その中で、学習指導要領の方向性として「予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自ら可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子供達に育む学校教育の実現を目指す」と述べている。

また「情報活用能力を、言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、学校の ICT 環境整備と ICT を活用した学習活動の充実」を明示した。さらに、学校における ICT を活用した学習場面「A 一斉学習・B 個別学習・C 協働学習」を提示した。この中で、B 個別学習における、B-2 調査学習、B-3 思考を深める学習、B-4 表現・制作は、学校図書館を活用とした学習形態と一致する内容であると考えられる。文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長 横井氏（2021）は、「各学校における ICT 環境の整備を踏まえ、学校図書館が一層の機能の向上や活性化を図るため

には、学校図書館における ICT 活用が一層重要になると考えています」と述べている。

そこで、A 小学校では、研究主題を「自分の考えを持ち、主体的に学び合う子どもの育成」とし、子どもたちの確かな読みと豊かな話し合い活動に重点を置くとともに G I G A スクール構想を踏まえて、学校図書館と ICT 機器をどのような場面でどのように活用すべきかについて検討を行うこととした。

1 研究の方法・内容

・研究の期間：2020 年 4 月～2021 年 8 月

1.1 研究 1

①「自分の考えを持ち、主体的に学び合う子どもの育成」を図るため、学校図書館を活用した校内研究を通して授業実践を行い、その成果を検討した。

② G I G A スクール構想を踏まえ、学校に配付されたタブレット PC の活用について、ICT 支援員の協働を踏まえ、学校図書館活用との併用の仕方を学年に応じて検討した。

1.2 研究 2

小中一貫型小学校・中学校として、B 小学校、C 中学校との連携を踏まえた共同研修を

